



海外で活躍する卒業生ー 3

[ミニ講演会：建築同窓会＋網野研究室]

7月13日(水) 18:30~20:00

法政大学デザイン工学部市ヶ谷田町校舎 T414 教室 (新宿区市谷田町2丁目33)

イタリアの街に住むように泊まる

—アルベルゴ・ディフーズ—

受講料：一般 500 円、学生：無料

中橋 恵



1997年 金沢大学工学部土木建設工学科卒業
1998～2000年にイタリア政府奨学生、
ロータリー財団奨学生としてイタリアへ(建築の勉強のため留学)
2001年 法政大学大学院工学研究科修士課程修了(陣内研究室)
2006年 ナポリ大学建築学部博士課程単位取得退学
現在は日伊間コーディネーター。
町歩き、カメラ、美術館・遺跡めぐりが好き。

イタリアの小さな町や辺境の村などで誕生している宿泊施設、アルベルゴ・ディフーズは、地震による災害後の町を復興させようと、当時地域経済学・マーケティングの大学教授であったジャンカルロ・ダッラーラ氏が考案した。それから30年経過した今、イタリア全土に110ものアルベルゴ・ディフーズが誕生している。

観光資源の少ない小さな村や集落では、空き家を魅力的な宿泊施設へと改築する以外に、村人と共同して観光客を暖かくもてなすことで人的資産を生かした手法で何とか復興しようと模索している。世界で3番目の高齢化率をもち、若者の失業率が43%を超えるイタリアの現状を、イタリアでの生活体験等も交えてお話ししたい。

イタリアの街に住むように泊まる

—アルベルゴ・ディフーズ—

中橋 恵

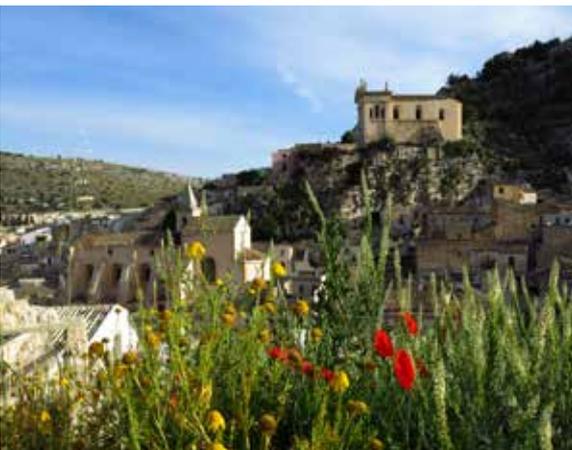
法政大学建築同窓会

ミニセミナー

2016年7月13日(水)

18:30~20:00

法政大学市谷田町校舎 T414 教室



アルベルゴとはイタリア語でホテルのこと、ディフーズとは分散するという意味です。つまり、ホテルの機能を一つの建物で完結せず、街の中に分散させるということです。イタリアでは、過疎になりがちな地方の小さな町の活性化のために、空き家になっている建物を改修して、宿泊棟、レセプション、レストラン、バー、特産品の商店などの施設を街の中にバラバラに配置して、宿泊者が自由に使えるように考えられています。

宿泊者は、民家に泊まって、街で買い物をしたり、食事をしたり、その町に住んでいるような感覚になり、今までの旅とはちょっと違った経験をすることができます。

又、多くのアルベルゴ・ディフーズでは、宿泊者に街を体験してもらう様々なイベントを企画していて、お祭りに参加したり、街歩きのツアーで、その町の歴史や文化を学ぶこともできます。

いま日本では、地方の街の過疎化や、シャッター街の問題、空き家問題など、建築を取り巻く様々な問題が顕在化していますが、イタリアにおけるアルベルゴ・ディフーズはその解決の一つのヒントとなるかもしれません。

中橋恵さんはイタリアのアルベルゴ・ディフーズ協会と連携して活動しており、まだまだ日本ではあまり知られていないアルベルゴ・ディフーズについて詳しいお話の聞ける良い機会ではないかと思えます。